



2013年6月8日発行

No.33

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：兼築信行 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】 <http://www.waseda.jp/honjo/honjo/index.html>

皆々、時間を大切に

学院長 兼 築 信 行

昨秋、学院長になって最初に受けた大ショックは、こはなんと時間にルーズな学校なのだろう！ということだった。着任後すぐ修学旅行に参加したら、集合時間は守らないわ、遅れて来たのはバスポートが見当たらないというたえるわ、こりゃあダメだと天を仰いだ。避難訓練を実施すれば、緊張感をまったく欠いて、いつまで経っても整列しない。教員の対応もバラバラである(生徒を全然注意しない教員もいる)。三学期はじめの学期集会ときたら、定刻を20分過ぎてやっと始まった。



学院長は立腹した。およそ現代の社会において、時間を守れぬ者に成業の見込みは無い。したがって、このままでは本庄の学院生は、成業の見込みがまったく立たないことになる。これは大変、教育の責任だ。そこで三学期の終業式は、生徒が集まろうが集まるまいが、定刻に開始する旨を宣言し、嘉来教務副主任が定時集合を促す校内アナウンスをなすつたら、マイクを申し受けて、学院長自ら念押し放送を流してみた。

するとどうだろう。やれば出来る。1秒たりとも遅れることなく開式することができたではないか。これに味を占めたので、始業式も同様にしてみたところ、5分前にはすべての生徒が体育館に入り、チャイムと同時に式を始めることができた。時間にルーズが本庄の「伝統」だったそうだが、そんな「でんとう」はさっさとLEDに取り換えたらよろしかろう。そういうのを「旧来の陋習」と申すが、打ち破るべしと我が国近代化の指針となった「五箇条の御誓文」にも書いてござるよ。

本年度のスローガンを、「時間を大切に」としたい。これは何も、学校行事を時間通りに行うことだけを意味

しない。例えば生徒指導を考えてみよう。高校生はまだ子どもだから、指導を受けるべき事案が生起するのは仕方がない。世の中トラブルは当たり前だ。しかし、ほんの少しだけ想像力をはたらかせれば、避け得た事例がほとんどではないのか？

生徒指導事案が発生すれば、当人は延々と事情を聴かれ、処分ともなればさらに連日の猛省をもとめられる。そのかんの時間は、本来ならもっと他の事に使うことができたはずだ。指導に当たる教員も大変、他の業務を擲って対応しなければならぬ。呼び出される保護者の方

も、場合によっては海外から来校いただくなんてではない。四方八方に時間の無駄遣いが生じる事態となる。そう考えれば、ブレーキをかけるのが賢明だろう。想像力を少しはたらかせ、矩を踏まない自制心をわずかに発動すればよいだけのことだ。

生徒指導はひとつ勘弁して欲しい。学院長の本業は大学教授である。研究論文を執筆していると、突然学院事務所からメールが来て、臨時教諭会開催ですとくる。たしかに学院長手当をいただいているから、文句は言わないが、心の中では「失われた私の研究時間を返して！」と、ペソをかきかき小さな声で叫んでいるのである。(涙)

本庄高等学院で皆が過ごす時間には、ものすごいコストがかかっている。試みにそれぞれの納付金額を、年間授業日数で割ってご覧なさい。それに通学費用、あるいは寮生ならば寮費がかかる。時間は無駄なく、有効に使わなければ罰が当たるといふものだ。本年度はともかくにも、「時間を大切に」だ。皆々、肝に銘じるよう切望する。

早稲田大学本庄高等学院に在籍すること

保護者の会会長 笠越義和



「皆さんは早稲田大学に一足早く入学するのです」「正式名称は早稲田大学本庄高校ではなく早稲田大学本庄高等学院ですの間違えないように」。入学決定者の集いの場において教務主任の羽田先生が仰られたこの言葉は、その時は、単なる拘り？」程度としか思ってい

ませんでした。しかし、この言葉にこそ「3年間をいかにか過ごすか」のメッセージが込められていたのだと、時を経て思い至りました。

大学受験を乗り越えることは、試験であり思い出であり人生の財産にもなるわけですが、本学院ではそれはありません。楽しかった、かけがえのない友達と思いがたくさんできた、勉強もした。何れも大切なことではあります。それだけで本学院に在籍した意味として充分でしょうか？。高等学院、学部、大学院という一連の流れからなる早稲田大学における真の学園を実践する上での基礎能力の醸成期間、つまり学部、大学院で学ぶための準備の場が学院とするなら、そこに在籍することの意味を明確に認識することが「3年間をいかに過ごすか？」に繋がるはず。

学生時代は充実した人生を送る準備期間ですが、故に学部に進む準備がじつくりとできる本学院に在籍するということには大きな意味があると思います。あらゆる事柄にはポリシーやリテラシー等の基本が重要であり、この上に応用力、困難への対応力、変化への適応力が育まれる。常に自分を分析し、目指す将来像や夢を見つめ、多分野のリテラシーが育まれる事で、いよいよ準備期間の最終章となる学部、大学院で学ぶよい準備ができた胸を張れる事が、大学に合格するための勉強である受験勉強との大きな違いであり、本学院に在籍した意義

になるのではないだろうか。

また、昨年発表された「早稲田大学本庄高等学院将来構想」には、「地域の特徴を活かした「森に想い土に親しむ」教育を一層発展させた「大久保山学」をテーマに、教科横断型の教育・研究活動を通して、社会の各分野で活躍できるリーダーを育成する」という、教育理念を更に高める、先生方の「覚悟」が宣言されています。机上の学びに留まらず、自ら積極的にチャレンジするという経験が、学びを何倍にも膨らまし、血となり肉となり細胞一つ一つに染み渡る。これは先生方だけの意思や努力で成り立つものではなく、学院生一人一人の自覚はもとより、我々保護者の理解と協力が不可欠と考えます。是非、全員が熟読し「丸」となって実践してゆけばあります。これも本学院に在籍した者の義務であり意義であると考えます。

本学院の大きな特徴である「校則のない自由な生活」。これは歴代学院生一人一人の強い意思と先生方の影のご尽力によって長い年月継続しているわけですが、これが一体何を意味するのか？なぜそれが学院生に与えられているのか？を、しっかりと考える必要があります。自由は信頼と責任の上に成り立つということ。これを認識し行動することが求められますが、それによって自分はどう成長できたか？を、卒業時までに明確に答えられるようになる事が、日々ご尽力頂いている先生方への御恩返しにもなると思います。

最後になりますが、昨年完成した寮には、鎌田総長により「早苗」という名が冠されました。苗床ですくすくと成長するその姿は、寮のみではなく、早稲田大学本庄高等学院に学ぶ学院生そのものであると思います。世界中から集った優りし精鋭の種たちが、大久保山という苗床に根を張り、更に磨きをかけられ、早稲田の品位、品格を備えた苗となり稲田へ移植される。そして、お米のように日本に無くてはならないもの、世界に誇るものへと成長し旅立つ。早苗という名は、集まり散じて人は変われど、学院の変わらぬ伝統として語り継がれてゆく事でしょう。



富士山が世界文化遺産に登録される。登山者の増加に伴って、更なる登山道の荒廃やゴミ問題が予想されるため、地元自治体では入山料の徴収を検討するという。これまで登山に親しんできた私からすれば、これらは登山者の中に「観光」者が増えるために生じる問題だと思ふ。登山者の多様化は、全ての登山者が、登山でのルールやマナーを遵守することを難しくさせている。

▼この数年での「山ガール」や高齢者の登山ブームと併せて、登山入門者を対象とした書籍が、数多く見られるようになった。ところが、登山のルールやマナーが体系的に書かれている書籍を探してみると、これが意外と少ない。私も数々の経験の中で、自然と学んだ気がする。誰もが気軽に始められるという取っ付きやすさゆえに、まずルールやマナーを習得してから登山を始めようとする者は、必ずしも多くないのではなかろうか。

▼スポーツには、ルールを破ると、その代償として相手側の攻撃となつて再開される競技が多い。一方、登山という「スポーツ」のルールやマナーは、総じて相手への気遣いや配慮そのものに他ならない。お互いが気持ち良く歩けるように、知らない人でも挨拶しよう。仲間や周囲の登山者を傷付けないように、故意に石を落さないようにしよう。ルールやマナーを違反する行為が、自他ともに生死に直結する場合すらある。

▼ルールやマナーを守らないとお互い気持ち良く歩けないのは、学院生活にも通じる。食べつ放しや飲みつ放しのゴミの散乱や、置きつ放しによる忘れ物は、なかなか減らない。泥の付いた靴で歩き回ると、校舎内が足跡だらけである。毎日清掃し、回収してくれる方々に少しでも思いを馳せれば、そういうことはできないし、お互いに気持ち良く生活できる環境が維持できるはずである。

▼今年度のワンダーフォーゲル部は、部員21名の大部帯となった。これだけの部員がいると、登山に対する興味や関心もやはり多様化する。それでも少なくとも彼らには、登山に親しむという「からこめ」様々な場面で他者に気遣い、配慮できる人間として成長して欲しいと願つ(素)

『サムギョブサルと青唐辛子』
韓国では、豚肉を食べる機会が多い。日本でも豚肉は馴染みのある食材で、様々な調理方法があるがサムギョブサルは、豚肉をシンプルに最高においしくいただける料理の一つだと思ふ。豚の三枚肉(ばら肉)を厚めに切り、鉄板で焼く。サンチュやエゴマなどの薬物野菜に乗せ、コチュジャンやキムチも入れて食べる。



全 州

全州は、韓国西南部の都市で人口は約65万人。百済時代の史跡が点在し、伝統家屋が残る美しい街である。韓国でも有数の穀倉地帯であり、ピビンバ発祥の地としても知られている。綺麗な水が豊富にあり、「食の都」として独自の食文化を発展させてきた。水を利用した紙すきによる伝統工芸品も有名である。食というものが人々の生活にどんな影響を与え、人々にどんな幸せをもたらしているのか考えるには最高の街である。

前号(緑風第32号)で教員コラムを担当された福水先生の後を受け、私も徒然なる「雑感」を書かせていただく。
2013年4月2日、3日に大韓民国全州チヨンジンを訪問した。目的は二つあった。第一に、全州の食文化を学び、そこにしかない「ほんとうの味」に出会うこと。その味を生み出しているものは何かを探ること。第二には、3年生修学旅行で韓国へ研修に行く生徒たちにどんな気づきを与えることができるか、その可能性を探ることである。

これは焼くのではなく、サムギョブサルを食する合間に生でかじるもので、さらに食欲が増すとのこと。辛いですが?と尋ねると、「おいを喰けば辛いかどうか分かりますよ...うん、これは辛いですね。」というこだった。挑戦されたら受けて立つしかなく、思い切つてかじつてみた。それは初めての辛さだった。自分の人生経験のすべてを集約してこの辛さは想像できなかった。涙はストレス発散になるというが、私はそれを体験により理解した。食事によつてしつかり活力をつけて、明日も生きるといふことだ。次の目標は、において辛さを判断できる人間に成長することである。

ほんとうの味

家庭科 棚橋 知之



サムギョブサル

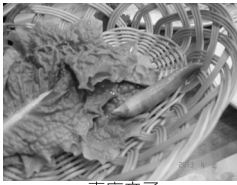


全州韓屋村

本庄高等学院では、今年10月に3年生112名が全州を訪れる予定だ。その旅において、生徒たちは、全州でしか出会えない料理に「ほんとうの味」を感じるだろう。その瞬間、生徒たちのほんとうの姿が現れると思う。私は、一教員として、その姿を見ることをとても楽しみにしている。

おいしさの基準に唯一のものはなく、それは人により違ふ。しかし料理には「ほんとうの味」というものが存在すると思う。野菜や肉、魚介類、さまざまなスープ、調味料。同じ食材でも土地により味が違ふし、その組み合わせ、調理法により味はさらに複雑になる。そして、ある土地で長い時間をかけて育まれた料理は、その土地でしか出会えない味として完成する。その味は、心を揺さぶるべきか考えるヒントまでも与えてくれる気がする。だから、ほんとうの味と出会う機会を大切にしたい。

これは焼くのではなく、サムギョブサルを食する合間に生でかじるもので、さらに食欲が増すとのこと。辛いですが?と尋ねると、「おいを喰けば辛いかどうか分かりますよ...うん、これは辛いですね。」というこだった。挑戦されたら受けて立つしかなく、思い切つてかじつてみた。それは初めての辛さだった。自分の人生経験のすべてを集約してこの辛さは想像できなかった。涙はストレス発散になるというが、私はそれを体験により理解した。食事によつてしつかり活力をつけて、明日も生きるといふことだ。次の目標は、において辛さを判断できる人間に成長することである。



青唐辛子



サムギョブサル

豚の脂が苦味のある野菜ととてもよく合う。日本で食べる優しい野菜の味とは違い、全州の野菜は強い苦味があった。よくこの組み合わせを見つけたものだと思ふ。ぐつと噛みしめて食べると辛いコチュジャンが味にコクを与えていることに気づく。辛さはパフオーマンスではなく、必要な調味料である。認識した。シンプルな料理であるが、同じ水で育ったそれぞれの食材が強い個性をもち、それがひとつになったときに旨い料理になる。韓国の人々が大切にしてきた味がここにあると思った。これがほんとうの味だと思った。その味に舌鼓を打っていると、同行した韓国の方がいるものを勧めてくれた。それは、サンチュの横に添えられていた少々若い感じの青唐辛子。聞くと

夢を育む特別な時間
14期生 光嶋裕介
www.ykas.jp

僕は今、建築家として働いています。本庄高等学院で過ごした高校3年間は、特別な時間でした。建築家がどのような職業か、みなさんご存知ですか? 平たく言えば、クライアントの要望を聞いて、ある敷地に建物を設計する仕事です。その場所の風土や歴史の声を耳をすませてデザインしなければ良いものはつくれないため、建築家にとって、他者への想像力が最も大切な素質のひとつなのです。

僕は、早稲田大学理工学部建築学科に進学し、大学院を卒業後、ドイツにある設計事務所就職しました。ベルリンで4年間働いた後に帰国し、東京で自分の設計事務所を独立したのです。こう書くとも、まるでトントン拍子に進んでいる人生のように見えますが、そうではありません。いつも悩み、いつも立ち止まり、失敗を乗り越えるための模索の連続の中から最良の道を選択しながら自分自身も変わってきました。がしかし、その中で変わっていないことがひとつあります。それは、「建築家になつて、たくさんの人々に喜ばれる建築をつくりたい」という夢です。この夢を育んだのがまさに、あの高校3年間だったのです。

具体的な話をしましょう。僕は、バスケット部でした。体育館で毎日大量の汗をかきながら先輩・後輩とバスケットを楽しみました。また美術部でもありました。放課後に土をこねたり、油絵を描いたりしました。時々、写真部の友人に誘われ、暗室で写真を焼いたりもしました。学園祭の時は、クラスの仲間と一緒にバンドを結成し、帰国子女だったので英語の発音が良いという理由だけでビートルズのコピーバンドのヴォーカルをやりました。

学内行事だけでも盛りだくさんですが、ホームステイという家族と離れる寮生活を通して、自分の部屋を綺麗にすることや、きちんと洗濯することを身につけました。読書するようになったのも高校生の時です。村上春樹さんの『ノルウエーの森』が人生で初めて最初から最後まで読み切った本でした。そこから、村上さんの本を読みあさり、活字を通して自分の知らない世界を想像する喜びを知り、自分の世界を広げていきました。知的な好奇心を育てる読書時間を今でも大切にしています。

もちろん、恋愛もたくさんしました。好きな女性からどのように振り向いてもらえるかがむしろ恋愛ばかり。うまくいった時も、そうでない時も、すべてが良い経験だった。なぜなら、鏡がないと自分の顔が自分では見えないように、自我というのは、たくさん他の人と自分が接することと初めて発見できるからです。そのためには、ドンドン恋愛し、たくさん他の人と関わっていかないとだめなのです。いろんな人の前で変化する自分を楽しんでもらいたい。二人っきりで食べるマクドナルドのバーガーは不味いが、恋人と一緒に食べるバーガーは、味が同じはずなのに美味しく感じるものです。

活躍するOB・OGたち



凱風館(がいふうかん)、神戸、2011

述のようになら、結論を述べましょう。僕は、上んなことにチャレンジしました。「石橋は叩いて渡れ」と言いますが、僕は叩かずにとにかく橋を渡りました。それを可能にしたのは、本庄高等学院で育てた無根拠な自信です。自然の中に校舎があり、素敵な先生と仲間がいる。素晴らしい環境の中、「受験がない」ということが大きかった。どこどの大学に入るために1点を競う不毛な勉強ではなく、自分の興味のとくまに学習し、自分の夢をみつける大切な時間が本庄にはありました。元気に動き回って、勇気を持って新しい自分を発見してください。なぜなら、夢は念じれば叶うのです。強く念じれば念じるほど、惜しみなく努力できるから。それ故に、僕は、「あの3年間で特別な時間だった」と断言できるのです。

3. ウィンターセミナー 実施日: 12月8日(土)
講座名 講師
本庄高等学院の新校舎の設計について 竹鼻 恭一(1期生 鹿島建設株式会社 建築設計本部)
コミュニケーション能力アップのための心と身体の教養講座 横山 仁一(3期生 劇団東京オレンジ、学校法人洗足学園)
私の時間軸と空間軸 五十嵐 元一(3期生 桜美林大学ビジネスマネジメント学群 准教授)
あらゆる問題を「質問自答」で解決する方法 原岡 修吾(4期生 株式会社オーダーメイドステーション代表取締役)
公認会計士の職務内容と魅力 有賀 一聖(23期生 会計事務所所属 公認会計士)
理工学部のスヌメー興味のあるものを選択しよう〜 長沢知諭(24期生早稲田大学大学院創造理工学研究科総合機械工学専攻)
春田かずみ(26期生早稲田大学先進理工学部生命医科学科学生)
ビジネス資格の最高峰「公認会計士」ができること T A C株式会社講師
法律系資格と公務員および公認会計士の仕事とは? (学校法人)大原学園 講師

4. 学部進学準備セミナー【3年生対象】
実施日 講座名 講師
2月20日(水) 『オープン教育センターで学べること』 金子 孝夫 オープン教育センター教務主任
『大学生活には、もっと大切なことがある』 中村 正徳 キャリアセンター担当部長
2月21日(木) 『大学生活とメディアネットワークセンター』 高橋 竜一 MNC助教
『有意義な学生生活を送るために』 葛山 康典 学生部副部長
2月22日(金) 『先輩へのメッセージ』 本学院卒業生(学部学生3名)
『鴨長明は何をやったかったのか? ...古典文学研究へのアプローチ』 兼築信行(文学学術院教授、本庄高等学院長)

2012年度 高校・大学一貫教育プログラム及び国際交流プログラム

1. 課外講義

実施日	講座名	講師
11月5日(月)	量子光学とその周辺	国立情報学研究所 平野 琢也(学習院大学教授)
11月5日(月)	科学の最前線「超伝導」を体験してみよう	中村 知夏(高崎経済大学非常勤講師)

2. サマーセミナー

実施日	講座名	講師
7月17日(火)	地域・地球環境を診断する〜大気・水・森林の環境化学〜	大河内 博(創造理工学部環境資源工学科教授)
	小さな機械の小さな物理ーマイクロマシンの作り方ー	岩瀬 英治(基幹理工学部機械科学・航空学科専任講師)
	ようこそ右と左の世界へ	朝日 透(先進理工学部生命医科学科教授)
	法学を学ぶということ	山口 斉昭(法学部教授)
	民族紛争への国際社会の取り組みー人道的介入と紛争後平和構築ー	久保 慶一(政治経済学部国際政治経済学科准教授)
	対話で学ぶ刑法入門	松澤 伸(法学部教授)
	現代中国の海外ポップカルチャー受容	高屋 亜希(文化構想学部教授)
	里山の生物多様性を保全する:二次的な自然と生物多様性	小柳 知代(人間科学部助教)
	ヨーロッパの言語ードイツ語と英語を中心にー	岡村 三郎(国際教養学部教授)
	7月18日(水)	
7月18日(水)	仕事、恋愛、社会貢献、どれもあきらめなくていい理由	白木 朋子(国際NGO「ACE」事務局長/理事)
	私たちはどれぐらい合理的なのか?	清水 和巳(政治経済学部国際政治経済学科准教授)
	素数にまつわる話題から	広中 由美子(教育学部数学科教授)
	ポルトガルの自然と生活	池 俊介(教育学部社会科 地理歴史専修教授)
	コーポレート・ファイナンスについて	谷川 孝彦(商学部教授)
	『結婚、学校選択、臓器移植』	戸田 学(社会科学部社会科学科教授)
	多様な人材をいかす	谷口 真美(商学部教授)
	マンガから美術史へ	益田 朋幸(文学部教授)
	運動・スポーツによる健康な人づくり・まちづくり	荒尾 孝(スポーツ科学部スポーツ科学科教授)

健康教育講演

日程	対象	講座名	講師
5月17日(木)	1年生	こころの健康について	榎木 啓二(早稲田大学保健センター 心理専門相談員)
11月8日(木)	2年生	飲酒・喫煙・薬物乱用予防について	横山 創(埼玉県立精神医療センター精神保健福祉士)
6月14日(木)	3年生	青年期のセクシャルヘルス	池上千寿子(NPO法人ふれいす東京代表)

6. 人権教育講演会

日程	対象	講座名	講師
10月3日(水)	1,2年生	NITドコモ ケータイ安全教室	NITドコモ講師

7. 国際交流プログラム(来校した学校)

日程	学校名	国・地域
11/3(土)~11/9(金)	National Junior College	シンガポール

以上

Super Science High School事業報告(2013年1月～5月)

藤田小での最後の授業(2月6日,本庄市立藤田小学校)

2月6日(水)、藤田小学校での学院生による今年度最後の授業が行われました。この日は「プレゼンテーションの名人になろう!」というテーマで学院生が、特に話術やデリパリアの基本に話題を絞って講義を行いました。「聴衆に背を向けない」「アイコンタクト」「原稿を見ない」「ボディランゲージ」「指し棒・レーザーポインターの使い方」「声の大きさ」それぞれのポイントで学院生4名がいい例悪い例をクイズ形式で実演し、爆笑を誘いました。その後、学院生たちが自分の経験をもとにプレゼンテーションがうまくなることの大事さを訴えました。休会后、藤田小6年生全員がプレゼンテーションのリハーサルを行いました。

本庄高等学院主催SSH成果報告会(2月13日,早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター)

2月13日(水)10:00より、早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター3Fレクチャールーム1において、「多様な連携がもたらす教育効果 一学校・国の境界を超えることは科学教育にどのような影響をもたらすのか?」をメインテーマに、SSH成果報告会が開催されました。この会は、SSH事業の成果を社会に還元するためのものとして、SSH校に実施が促されているものです。生徒の研究発表は以下の通りです。
「Creating Micro Hydroelectric Generation and Studying Its Practicability」(藤井すみれ・萬羽里映)
「河川における溶存酸素濃度の改善」(堤彩香)
「私たちが魚のためにできることは?」(藤田小学校6年生全児童)
「ヘチマを使った水質浄化研究」(小林高也(本庄東高校)・清水皓裕)
「ペットボトルロケット起動解析」(高橋宏待)
「桑の異形葉性のパターン化」(長谷川加奈)
「WECマシンの電気自動車化」(春日浩輝)

市民シンポジウム「川の地域連携と人づくり」(3月16日, 早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター)

3月16日(土)13:00より、早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター3Fレクチャールーム1において、市民シンポジウムが開催されました。本庄学院からは、事例発表「河川を通じた高校生の地域連携とその効果」(早大本庄学院教諭 峰真如)、研究発表「ヘチマを使った水質浄化研究2012」(清水皓裕他共同発表)、研究発表「河川における『早稲田式』マイクロ水力発電の実用化の試み」(早大本庄学院萬羽里映・藤井すみれ)の報告がなされました。

SSH関東近県合同発表会(3月17日, 早稲田大学西早稲田キャンパス)

SSH部員が中心となって参加し、口頭発表・ポスター発表を行いました。
発表例:「ダイヤモンドの人工合成」、「WECマシンの電気自動車化」、「クワにおける異形葉性の規則性」

平成25年度日本水産学会春季大会高校生部(3月28日, 東京海洋大学)

本庄高等学院からは「河川堰による溶存酸素濃度の改善について」、「河川におけるマイクロ水力発電の実用化」、「本庄市を流れる河川の水質と水生生物の関係」という3テーマで発表しました。

SSH講演会「植物における放射線核種の移動」(3月30日, 本庄高等学院)

講師: 塚田祥文氏 (福島大学教員)
内容: 原子力発電所の事故で広がってしまったセシウムがどのような経路で植物に入り、どこに蓄積されるか、またその量は人体に被害を与えるほどなのかを科学的な研究データをもとにお話をいただきました。

SSH講演会「潜水ロボットの将来性と作製に向けての取り組み」(4月25日, 本庄高等学院)

講師: 増田 殊大 氏 (東京大学 生産技術研究所 研究員)
内容: 我が国は、わずか 38 万 km2 の国土面積に対し、海の面積 (EEZ 排他的経済水域) は、447 ㎢と国土の 12 倍もの広さを誇る、世界で 6 番目に大きい排他的経済水域を有します。近年、日本の海域にて、メタンハイドレートやレアメタルなどの資源が見つかり注目されています。現在の、輸入に頼るエネルギー政策から脱却し、日本の未来を切り開くために、海中ロボットがどのような可能性を秘めているかについて説き、その入門編として、水中ロボコンへの参加と、コア技術について講演していただきました。

藤田小での2013年度最初の授業(5月8日,本庄市立藤田小学校)

藤田小学校5・6年生46名に対して、今年度初めての総合学習の授業が学院生によって行われました。今回は第1回であり、算数・科学に興味を持ってもらうことを目標に、「数当てゲーム」「目の錯覚」の講義が行われました。



日本水環境学会関東支部から以下の賞を受けました(5月16日)

【水環境保全活動奨励賞】

「多様な連携活動による河川環境改善活動と環境理解・環境教育の普及」 早稲田大学本庄高等学院河川研究班

【水環境研究奨励賞】

「河川における溶存酸素濃度の改善」堤彩香

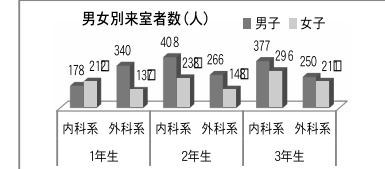
活動奨励賞は、2009年から継続している本庄高等学院の河川環境改善活動と2012年度から開始した藤田小との連携活動が評価されました。研究奨励賞は2012年度卒業生堤彩香の卒業論文が評価されました。この賞は大人の活動も含めたものであり、本庄高等学院にとっては嬉しいダブル受賞となりました。

2012年度保健室利用状況

本庄高等学院保健室																	
症状別利用状況																	
項目	症 状	1年		2年		3年		合計	項目	症 状	1年		2年		3年		合計
		男子	女子	男子	女子	男子	女子				男子	女子	男子	女子			
外 科 的 症 状	擦過傷	68	35	39	24	30	33	229	内 科 的 症 状	頭暈目眩	0	1	2	2	4	1	10
	切傷・刺傷	37	16	48	24	37	28	190		頭痛	36	31	52	31	67	51	268
	腫瘍	28	2	6	3	13	10	62		風邪症状	109	53	259	132	232	99	884
	関節・筋肉痛	81	26	58	20	78	34	297		発熱	11	7	28	7	32	8	93
	打撲	32	12	21	9	10	8	92		吐き気・嘔吐	19	11	27	26	18	33	134
	捻挫・突き指	51	14	39	22	22	170	気分不良		1	6	0	4	5	12	28	
	骨折・脱臼	1	1	2	1	1	2	8		めまい	1	2	3	2	5	8	21
	乾燥れ・マメ	12	3	12	8	6	9	50		腰痛・下痢	7	27	25	37	15	50	161
	陥入爪・爪剥離	9	4	4	1	9	4	31		月経痛	0	5	0	1	0	10	16
	虫さされ	0	4	2	8	7	16	37		発疹	1	2	1	0	2	7	13
	やけど	0	2	0	7	4	3	16		倦怠感	5	7	21	4	11	14	62
	目の負傷	2	0	2	0	1	1	6		その他	8	67	16	6	13	19	129
	目の痒み・充血	5	11	18	11	19	30	94		小 計	198	219	434	252	404	312	1819
	歯の負傷	0	0	1	0	0	0	1		合 計	538	356	700	400	654	523	3177
	鼻出血	4	5	2	4	4	3	22			(延べ数)						
	その他	10	2	12	6	9	8	47									
	小 計	340	137	266	148	250	211	1352								昨年年度比 +75件	

曜日別利用状況						
曜 日	1年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
月	71	57	123	64	118	98
火	97	61	123	87	101	75
水	62	30	74	40	90	68
木	105	84	126	67	143	109
金	81	63	118	82	105	96
土	96	51	104	41	64	62
休日	6	3	6	5	8	1
合 計	518	349	674	386	627	507

(実件数)



●2012年度の保健室

全体的には昨年度より利用件数はかなり増加した。
特にベット利用者が、昨年度よりかなり増え、内訳は男子が89件、女子が180件増加した。
また、計測利用も、昨年度の2倍となった。
新校舎になり、保健室が近くなったことから、利用者が増えたと考えられる。
男女共に、心因性と思われる体調不良を訴えるケースが多く、十分に対応できるように体制強化が望まれる。

負傷時間別件数	
時間帯	件数
登下校中	140
休憩中	62
授業中	547
部活動中	274

ベッド利用状況		
学 年	男子	女子
1 年	49	132
2 年	111	77
3 年	104	142
合 計	264	351

医療機関搬送状況		
学 年	男子	女子
1 年	8	2
2 年	5	0
3 年	9	2
合 計	22	4

教職員その他利用状況	
生徒	150
教職員	6

健康相談		
学 年	男子	女子
1 年	18	19
2 年	24	7
3 年	9	27
その他	5	8
合 計	56	61

計測等利用状況	
生徒	1442
教職員	21

県学校総合体育大会陸上競技の部北部地区予選会

		4月26日～28日 熊谷	
男子	100m	5位	三田真也(3G)
	200m	優勝	三田真也(3G)
	400m	5位	田村 優(2C)
	800m	2位	佐藤誠也(2F) 8位 澁澤広大(3C)
	5000m	3位	富岡秀虎(3B)
	400mH	優勝	田村 優(2C) 4位 近藤亮平(3C)
	3000mSC	8位	青山一夫(3F)
	4X100mR	6位	早大本庄 池田賢史(3C) 塚本弘樹(3C) 柳田光祐(2D) 村田優介(3H)
	4X400mR		早大本庄 田村優(2C) 佐藤誠也(2F) 澁澤広大(3C) 近藤亮平(3C)
	砲丸投	3位	池田賢史(3C)
女子	200m	3位	田々楽智理(2C)
	100mH	優勝	伊達はるか(3B)
	4X100mR	2位	早大本庄 山本奈未(3G) 宮下奈々(2D) 松田美穂(3G) 田々楽智理(2C)
	4X400mR	6位	早大本庄 市川紗也加(2G) 田々楽智理(2C) 新澤紗希(3C) 鈴木優里菜(3C)
	走高跳	8位	伊達はるか(3B)
	砲丸投	6位	松崎杏奈(2D)
	円盤投	3位	松崎杏奈(2D)
	やり投	6位	土井はるか(3B)
	総合	6位	早大本庄
	200m	2位	三田真也(3G) 21秒49

県学校総合体育大会陸上競技の部		5月11日～14日		熊谷
男子	200m	2位	三田真也(3G)	21秒49
	4X100mR	2位	早大本庄	41秒70
	池田賢史(3C) 塚本弘樹(3C) 柳田光祐(2D) 三田真也(3G)			
	4X400mR	6位	早大本庄	3分23秒58
	柳田光祐(2D) 鈴木颯人(1D) 近藤亮平(3C) 三田真也(3G)			
トラック競技の部		総合 8位		

トラック競技の部 総合 8位

メンバールーム：塩田瑞季・内田帆乃佳・新井由梨・中塚友梨・大島桃
1回戦：Jge
2回戦：早大本庄3-0独協埼玉
3回戦(ベスト8決)：早大本庄2-0開智一貫
リーグ戦1回戦：早大本庄3-0昌平
リーグ戦2回戦：早大本庄3-0越谷南
リーグ戦3回戦：早大本庄0-2山村(打ち切り)
リーグ2位で3位決定戦、早大本庄2-0秀明英光(打ち切り)

塩田のシングルス優勝と団体戦
関東出場で、2007年の男女共学から始まった女子テニスの歴史に大きな1頁が刻まれました。昨年春の関東、秋の関東選抜とあと一歩で逃していたので、大きな感動に包まれるというよりも、運動を来たかという感じでした。山村浦学に勝って決めたら違っていたかもしれません。6月7日、10日の関東大会に於て有明に臨みます。応援よろしくお願いいたします。



トラック競技の部 総合 8位

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝

男子400mリレー決勝